

製品名: RIP ウサギモノクローナル抗体

カタログ番号: AMRe21588

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA,IP
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG,Kappa
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.3mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、50%グリセロール、0.05%プロクリン 300、0.05%保護タンパク質
精製	プロテイン A

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,IHC 1:200-1:1000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,IP 1:50-1:200
分子量	Calculated MW:76kD;Observed MW:76kD

抗原情報

遺伝子名	RIPK1
別名	RIP RIP1
遺伝子 ID	8737.0
SwissProt ID	Q13546
免疫原	ヒト RIP の組み換えタンパク質

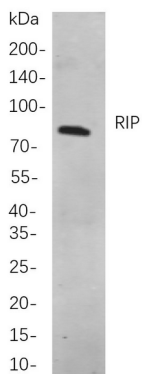
背景

細胞局在: 細胞質、膜性。触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。機能: アポトーシスと NF-κB の活性化を促進します。TNFRSF1A を介した NF-κB の活性化に必要です。PTM: セリンおよびスレオニン残基が自己リン酸化されます。PTM:

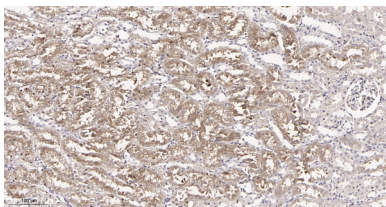
TNF 誘導性アポトーシス中にカスパーゼ 8 によってタンパク質分解的に切断されます。切断により NF- κ B の活性化が無効化され、TRADD-FADD 相互作用を介してアポトーシス促進シグナル伝達が強化されます。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。TKL Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。類似性: 1 つのデスドメインを含みます。類似性: 1 つのタンパク質キナーゼドメインを含みます。サブユニット: TNFRSF6 および TRADD のデスドメインに結合します。TNF 依存性プロセスにおいて、TRADD によって TNFRSF1A にリクルートされる。RIPK3、UBCE7IP1 アイソフォーム 3 (ZIN)、EGFR、IKBKG、TRAF1、TRAF2、および TRAF3 に結合する。BNLF1 と相互作用する。TNF- α 刺激により SQSTM1 と相互作用する。MAVS/IPS1 と相互作用する可能性がある。

研究分野

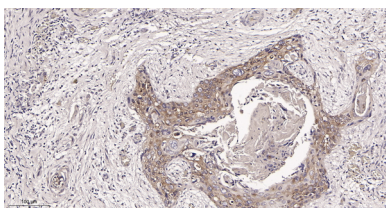
画像データ



HEK293 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。RIP ウサギ mAb を用いた。抗体の検出には HRP 標識ヤギ抗ウサギ IgG 抗体を用いた。



パラフィン包埋ラット腎臓組織の免疫組織化学分析。1、RIP ウサギモノクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2、EDTA pH 9.0 を使用して抗体を回復させた (>98°C、20 分)。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。



パラフィン包埋ヒト子宮頸癌組織の免疫組織化学分析。1、RIP ウサギモノクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2、EDTA pH 9.0 を使用して抗体を回復させた (>98°C、20 分)。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。